

各位

東大阪宇宙開発協同組合
理事長 杵本日出夫

人型宇宙ロボットプロジェクトのお知らせ

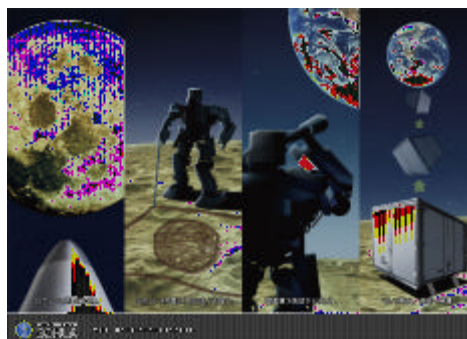
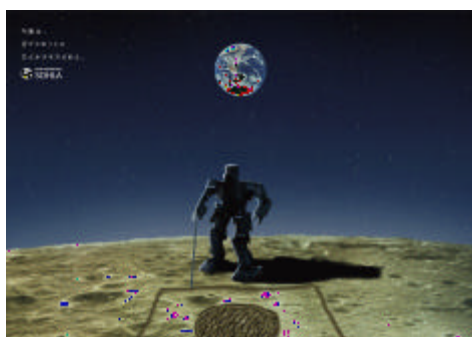
平素より当組合に格別のご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2002年12月、長引く不況で活力を失いつつあった町を元気にしようと東大阪を中心とした中小企業が東大阪宇宙開発協同組合（SOHLA）を立ち上げ、小型の人工衛星「まいど1号」の開発を始めました。そして2009年1月23日にJAXAのH Aロケット15号機の相乗り衛星として搭載。種子島宇宙センターから打ち上げられ、軌道投入を成功させました。

予定されたミッションはすべて成功することができ、日本中の話題になり「まいど1号」の知名度も日本国民の2人に1人が知るところとなり、人工衛星が身近に感じられるようになりました。大学や企業の人工衛星開発へのチャレンジ気運に広がりが見られます。まいど1号の成功で、組合企業では宇宙ステーション搭載予定の雷観測装置開発の受注や、九州大学連合のSバンド無線用フィルタ設計の受注にも結びついており、少しずつではありますが、次のステップへの一歩として実績を上げています。

先頃、日本人宇宙飛行士「山崎」さんが、国際宇宙ステーションへの物資輸送が成功し、宇宙でのミッションを終えて無事帰還しました。そのニュースを見た日本中は、宇宙への夢と情熱を益々膨らませるものとなりました。

そこで映し出されたロボットアームがカナダ製であることを知りました。産業用ロボットは、日本が世界に誇れる技術です。そのロボットアームが日本製では無いことに残念な思いがしました。そこで、SOHLAは2010年4月に、「まいど1号」の成果をロボット技術に活かし、2足歩行ロボットで月面に降り立ち、日本国旗を描き万歳をする。そして、置き去りにせず地球帰還を果たしてもらいたいと夢のようなことを考えて“東大阪発宇宙へ”再び挑戦することにしました。



【お問い合わせ】東大阪宇宙開発協同組合 事務局（担当：野田・松岡）

TEL:06-6747-8081 / FAX:06-6747-8095